

## はじめに

せきせいしょうこ

石西礁湖は、石垣島と西表島の間に広がる日本で最大規模のサンゴ礁域で、西表石垣国立公園に含まれています。

我が国では珍しい準堡礁型のサンゴ礁が発達している石西礁湖は、高緯度地域にありながら、フィリピン海域や世界最大のサンゴ礁であるオーストラリアのグレートバリアリーフと肩を並べるほど多くのサンゴの種数が記録されていることから、国際的にも重要なサンゴ礁生態系です。また、北側を流れる黒潮の影響を受け、サンゴ礁生物の種多様性が国内で最も豊かな海域であり、かつ、その黒潮に乗って沖縄島などの高緯度域へのサンゴの幼生等の供給源となっている可能性があり、我が国のサンゴ群集を支える上で重要な役割を果たしていると考えられています。地元の人々にとっても漁業や観光などの地域経済を支える存在であり、多くの人が活動する場となっています。

その石西礁湖が、赤土流出などの陸域からの環境負荷、高水温による白化、オニヒトデの大量発生等により、攪乱を受け、大きく衰退しています。環境省が平成 17 年 3 月に策定した「石西礁湖自然再生マスタープラン」によると、サンゴ被度が 50% 以上の高被度域は、1980 年頃と比較すると約 18% にまで減少したとされています。

このような状況から、「かつてのすばらしい石西礁湖のサンゴ礁を取り戻したい」、「もっと美しい海を見てみたい」、「サンゴとともに生きる地域をつくりたい」という熱い思いを持った多くの人が集まり、石西礁湖自然再生協議会が発足したのは平成 18 年 2 月のことです。協議会には、地元住民、市民団体（NPO、NGO）、漁業や観光関係の団体、研究者、行政機関など多様な主体が参加しています。今までに 5 回の協議会が開催され、どのような目標に向かって進むべきか、どのような活動をすべきか、それぞれの構成委員ができることは何か、などについて活発な議論を行い、この「石西礁湖自然再生全体構想」（以下、「全体構想」という。）をまとめました。

全体構想は、石西礁湖の自然再生事業が進むべき方向性を示したものです。今後、この全体構想に基づいて、各事業実施者により実施計画が立てられ、サンゴ礁の

再生を目指した事業が進められることになります。刻々と変化する海の中に息づくサンゴの再生過程には、予期せぬ事態が起こることもあるでしょう。私たちは活動を随時見直しながら再生に向けた取組を進めていきたいと思います。

自然再生事業は立場が異なる多くの方々との連携が不可欠です。協議会で真摯な議論を継続することに加えて、地域の人たちと十分な話し合いをして、この事業の重要性に対する共通の認識を持つことが出来るよう最大限の努力をしなければなりません。この全体構想が、今後の議論に大いに役立つことを期待します。

2007 年 9 月

石西礁湖自然再生協議会 会長

工 屋 紙

